

戸田幸伸特任准教授、2014年度日本数学会賞春季賞受賞

Kavli IPMU 特任准教授の戸田幸伸さんが「代数多様体の導来圏の研究」の業績により2014年度日本数学会賞春季賞を受賞しました。日本数学会賞春季賞は1973年に創設された彌永賞を前身として1988年に創設された賞で、優れた業績を上げた40歳未満の日本数学会会員を表彰するものです。学習院大学で開催された日本数学会2014年度年会中の3月16日に授賞式が行われました。



戸田幸伸さん

J-PARC ニュートリノビームグループ、2013年度諏訪賞受賞

J-PARC ニュートリノビームグループ（代表：小林隆 高エネルギー加速器研究機構教授）がT2K実験での「世界最高強度ニュートリノビーム施設の実現による電子ニュートリノ出現現象発見への貢献」により平成25年度諏訪賞を受賞しました。受賞グループには Kavli IPMU 特任助教のマーク・ハーツさんも加わっています。諏訪賞は、公益財団法人高エネルギー加速器科学奨励会により、高エネルギー加速器科学の発展において長期にわたる貢献など特に顕著な業績があっ



マーク・ハーツさん

たと認められる研究者・技術者・研究グループに授与されるもので、2014年2月17日に東京のアルカディア市谷で表彰式が行われました。

リサ・ランドール博士の講演会「宇宙の扉をノックする」開催

2014年1月25日に東京大学本郷キャンパスの小柴ホールにおいて、ハーバード大学教授の素粒子理論研究者、リサ・ランドール博士の「宇宙の扉をノックする」と題する一般講演会がKavli IPMU主催により開催されました。ランドール博士は理論物理学者の立場から欧州合同原子核研究機関（CERN）のLHC実験と、そこで発見されたヒッグス粒子について、また、広大な宇宙と宇宙を形作る最小単位である素粒子の「スケール」の違いとその関係について解説しました。英語で行われた講演は、Kavli IPMUの村山斉機構長が解説を加えながら逐次通訳し、理解しやすいと好評を博しました。ランドール博士は和訳されている一般向け科学書でも人気があり、会場は満席でメモを取りながら熱心に聞き入る参加者の姿が多く見られました。

なお、Kavli IPMUの向山信治特任准教授によるランドール博士のインタビュー（本誌36-40ページ）も併せてご覧下さい。



質問に答えるランドール博士。右は通訳する村山機構長。

シカゴにおけるAAAS年次大会にWPI拠点合同参加

アメリカ科学振興協会（AAAS: American Association for the

Advancement of Science）の年次大会が2014年2月13日から17日の5日間、米国イリノイ州のハイアット・リージェンシー・シカゴを主会場として『Meeting Global Challenges: Discovery and Innovation（地球規模の課題に対処する：発見と技術革新）』をテーマに開催され、バンクーバーで開催された一昨年、ボストンで開催された昨年（共に6拠点参加）に続き文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の9拠点が合同で参加しました。

この年次大会は科学誌「サイエンス」を刊行するAAASが1848年の創設以来毎年開催しているものです。現在は米国内のみならず世界中から科学者、技術者、行政官、教育者、科学ジャーナリスト、一般市民等数千人が参加する大イベントで、科学・技術の最近の発展を議論する多彩なプログラムが用意されています。

WPIの9拠点は、科学技術振興機構（JST）が主催する日本パピリオンの一員として2月14日から16日までの3日間にわたりブースを出展するとともに、理化学研究所との共催により2月14日に『Build a Career in Japan!（日本でキャリアを積もう!）』と題した1時間のワークショップを行いました。ワークショップでは岩渕秀樹文部科学省研究振興局基礎研究振興課基礎研究推進室長がWPIプログラムについて、九州大学I²CNER（カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所）のペトロス・ソフロニス所長がWPI拠点における先進的な研究活動や国際的研究活動について説明を行いました。



WPI拠点のブース風景。

FIRST EXPO 2014に村山プロジェクト SuMiReが参加

2014年2月28日と3月1日の2日間、東京のベルサール新宿グラウンドにおいて、『最先端研究開発支援プログラム (Funding Program for World-Leading Innovative R&D on Science and Technology、略称FIRST)』の最終年度を締めくくるFIRST EXPO 2014が開催されました。FIRSTは、先端的研究を促進して我が国の国際的競争力を強化するとともに、研究開発成果を国民及び社会へ還元することを目的として内閣府の総合科学技術会議の主導によって2009年度に始まり、日本全国からトップレベルの研究者30人が中心研究者を務める30プロジェクトが選定され、5年度に渡って総額1,000億円が助成されました。Kavli IPMUの村山斉機構長が中心研究者を務めるSuMiRe (Subaru Measurement of Images and Redshifts) プロジェクトもその一つで、すばる望遠鏡を用いて、超広視野イメージングと超広視野分光という最先端の宇宙観測を通してダークマター・ダークエネルギーの正体を究明し、宇宙の起源と未来を解き明かそうというものです。

FIRST EXPO 2014では30プロジェクトの各研究者による研究概要および成果のプレゼンテーション、ブース展示をはじめ、さまざまなイベントが実施されました。SuMiReプロジェクトは、同プロジェクトが製作に関わり、この2014年からすばる望遠鏡での運用が開始された超広視野デジタルカメラ、



講演する高田教授。

ハイパー・シュプリーム・カム (HSC) に使用されている非球面レンズの実物大レプリカを展示するとともに、2月28日に中心メンバーの高田昌広 Kavli IPMU 教授が SuMiRe プロジェクトの現状と今後期待される研究成果について講演を行いました。

女子中高生進路選択支援イベント「宇宙を知りたい人集まれ!」を開催

2014年3月15日に Kavli IPMU と東京大学宇宙線研究所の共催により Kavli IPMU 研究棟を会場として女子中高生進路選択支援イベント「宇宙をのぞいてみよう!」が開催され、35人の女子中高生が参加しました。このイベントは、女子中高生の理系分野に対する興味や関心を喚起し、理系進学を支援するために科学技術振興機構 (JST) の支援を受けて東京大学が企画した取り組みの一環として行われたものです。2人の女性研究者、Kavli IPMU の石垣美歩さん (日本学術振興会特別研究員) と宇宙線研究所の百瀬利恵子さん (特任研究員) からそれぞれが取り組む研究について講義を聞き、また大学院生のティーチングアシスタントの指導により重力波望遠鏡に利用されるレーザー干渉を用いた実習を行い、その後交流スペースで先輩研究者との懇談会が和やかに行われました。参加した女子中高生からは「大学での学生生活のことが聞けて良かった」、「宇宙について、もっと詳しく知りたくなった」などの声が聞かれました。



交流スペースでの懇談会の様子。

人事異動

昇任

Kavli IPMU 博士研究員のスルド・モレさんが2014年3月1日付けで Kavli IPMU 助教に昇進されました。



転出

次の方々が転出しました。[括弧内は Kavli IPMU 在任期間です。]

杉本茂樹さん [2008年4月1日 - 2014年3月31日] Kavli IPMU 教授から京都大学基礎物理学研究所教授へ。

唐牛 宏さん [2010年4月1日 - 2014年3月31日、但し2010年4月1日 - 2010年5月31日は特任研究員として] Kavli IPMU 教授から自然科学研究機構特任教授へ。

直井克之さん [2012年4月1日 - 2014年2月28日] Kavli IPMU 博士研究員から東京農工大学工学院数理科学部門講師へ。

野沢貴也さん [2008年9月1日 - 2014年3月31日] Kavli IPMU 博士研究員から国立天文台特任助教へ。

斎藤智樹さん [2010年5月1日 - 2014年3月31日] Kavli IPMU 博士研究員から東京大学宇宙線研究所協力研究員へ。

藤田充俊さん [2013年4月1日 - 2014年3月31日] 日本学術振興会特別研究員の身分のまま杉本茂樹教授の異動に伴い京都大学基礎物理学研究所に機関変更。

金田邦雄さん [2013年4月1日 - 2014年3月31日] 日本学術振興会特別研究員から東京大学宇宙線研究所特任研究員へ。

土岡俊介さん [2011年4月1日 - 2014年3月31日] 日本学術振興会特別研究員から東京大学大学院数理科学研究科・リーディング大学院特任助教へ。